

支える会つうしん

公立芽室病院をみんなで支える会広報
第1号
2011年7月5日発行

「支える会」立ち上がる！ 総会も無事終了

4月26日（火）めむろーど2階セミナーホールにて公立芽室病院をみんなで支える会の設立総会が開催されました。宮西町長、宮本名誉院長、小窪院長御臨席のもと、当日までに入会いただいた125名中約80名の参加のもと無事終了いたしました。

総会では、ひとりひとりの「応援する気持ち」を形に現し、自分たちができることから始めることを確認し、鳥本さんが会長に選出されました。

総会後の小窪院長の記念講演では、全国の病院の抱えている問題・国の政策と病院の関係をわかりやすく教えていただきました。また、新院長としての思いなども伝わる心に残る講演会となりました。

<支える会役員紹介> ※敬称略

役職名	氏名	役職名	氏名
会長	鳥本ヒサ子		明瀬 幸子
副会長	高橋 博		安藤 功
	片桐 和江		大橋 貞一
事務局長	村上 哲也		澤尻 啓子
会計	児玉 久	幹事	曾根 義継
監査	佐藤 正行		田部 ミサエ
	佐藤 得男		堀井ゆり子
顧問	山本 孝二		前山 左絵
	武藤 保宏		安田 教史

支える会「ボランティア」早速活動です。



左から堀井幸子さん、杉浦康恵さん、松岡保子さん

5月30日（月）病院の受け付けロビーに生け花が飾られました。支える会会員3名によるボランティアで院内が少し華やかになりました。今後続けて頂ける予定です。病院へお立ち寄りのせつは、お見逃しなく。今後続けるうえで一緒に活動して下さる



生け花スタッフを募集しています。ご協力いただける方事務局まで連絡ください。

教えて！ 支える会コーナー

病院や支える会に対する素朴な疑問にお答えするミニ情報コーナーです。

芽室町には個人の病院もあるけれど、公立芽室病院がある方がいいの？



支える会は、芽室町に住む住人が例え車が使えなくとも歩いて行ける所に病院を、子どもたちを安心して育てられる医療環境も整った町を願う、公立芽室病院の利用者などが支えたいという気持ちで活動しています。

その考えの根拠には、例えば昨年の冬に新型のインフルエンザが流行した時に一時に大勢の患者さんが病院にかかる事態が想定されました。その上、人や物の移動制限。普段帯広の病院を利用している人も、市内で患者さんがあふれた場合は地元へという措置になったかもしれません。また、今回の震災で石巻の総合病院の動きを報道等で知るにつけ、自動車が使えない災害時にも病院にいくの意味を考えました。全国の地方病院の疲弊する報道こられる度、国の医療改革の結果とはいえ、住民がしっかりしないと病院もつぶされる時代なのだと痛感しました。芽室町のように開業医の医師もいて「かかりつけ医」がもて、何かの時に公立芽室病院とも連携ができる。この両方が共存している関係が、この規模の町の住人の健康を守るうえで理想的だと考えられます。全国各地で同じように地域の病院を支える仲間がいます。その方たちの知恵も借りながらできることを考えていきたいと思っています



支える会の会員になるときは、どうしたらいいの？



公立芽室病院の受付にも「入会申し込み」が置いてあります。詳しいことは、会長・事務局長にお問い合わせください。個人や団体（企業）での入会ができます。活動資金も自分たちで補う活動ですので、年会費1000円となっています。



年会費の1000円って！ 何に使うの？



事務局が、打ち合わせに使う用紙代、通信の用紙代、行事等の折り込みチラシ代などみなさんといっしょに情報を共有して活動していくためのお金として使われます。というか、今のところ使われています。（また、初年度なので何に00%と具体的な提示はできません。すみません。）



病院を知ってる？

公立芽室病院は、公の立場なので病院のアピールはしにくい立場なのですが、地元の私たち利用者が知っていて損はない情報。例えば診療について、検査についてなど病院の素敵なことはしっかり取材し皆さんに伝えていきたいと考えています。病院を知ることでもみなさんとながっていきたくて考えています



会員は、随時募集しています。

会員の要件 公立芽室病院を利用している人
公立芽室病院を大切に思う人
お医者さんや看護師さんを応援したい人

そういう人なら
どこに住んで
いてもOKです

- ★ 問い合わせ 会長宅 62-1439
事務局長宅 62-2516
- ★ 年会費は、1000円です

初年度の活動開始にあたって

会長 鳥本 ヒサ子

「支える会」設立から早や2か月が過ぎようとしています。5月30日に第1回役員会を開催し、事業の推進役である幹事を選任させていただきましたが、今年度は①労働奉仕の活動 ②広報活動 ③啓蒙活動の3点を柱に具体的な活動に取り組んでいくことになりました。

労働奉仕の活動では、周辺整備・美化活動が早速動き出しました。

“生け花”のグループは、3名の方が交代で受け付けロビーに定期的にお花を生けてくれることになりました。

“花壇”のグループは、病院前及び建物北側の花壇を整備し、マリーゴールド・ベコニアなどを植えました。

総会当日のアンケートで、花壇の仕事を手伝えると回答くださった方などに呼びかけ、役員を含む13人で作業を行いました。これからは、水やりや花ガラ摘みなど秋まで手入れが必要になってきます。1回2～3人で割り当てすれば、1人当たりの回数も少ない期間で済みますので、会員の皆様のひとりでも多くの参加をお願いしたいと思います。

玄関を出入りする人が、足を止めて笑顔になっているのを見ると、思わず声をかけてしまうほど、早くも愛着を感じてしまいました。これからの作業や、今後予定している催しものなどに参加しながら、会員の皆様に公立芽室病院を今以上に身近な存在に感じて頂ければ嬉しく思います。

「地元到医院があって当たり前」・でなく、「地元の病院をなくしてはならない」という気持ち、利用する私たち一人ひとりの応援する気持ちを形にするために「支える会」は設立されました。こうした活動がいつか医療現場と町民をつなぐ懸け橋となることを願いつつ活動開始にあたっての挨拶とさせていただきます。

小窪医院長の東日本震災支援帰町

報告会がありました。

5月16日(月)公立芽室病院にて約50名の方の参加のなか南三陸町等にておこなった医療ボランティア診療について報告がありました。

公立芽室病院も医師数など余裕があったわけではありませんが、今回の震災で困っている方達のために芽室町から医師を派遣できる態勢が取れたことは町民としてとても誇らしく感じることです。それにより日常の業務は大変になるのですが、みんなで支える病院の体制も素晴らしいものがあったと思います。貴重な体験をされました小窪医院長の報告は公立病院の5月24日付ホームページにも載せてありますのでご覧ください。

支える会では、小窪医院長にインタビューさせていただきました。貴重なお話を何回かに分けてこの通信の中で紹介していきたいと考えています。

<小窪医院長医療ボランティア報告から感じたこと>連載1

震災から数カ月過ぎ医療ボランティアを計画的に組織的に進めているのは2チームしかないそうだ。小窪医院長は、そのうちのひとつ自治医科大学同窓会東日本大震災プロジェクトの一員として支援活動をしてきたそうです。

先日(6月23日)は、十勝も揺れる地震があり小窪医院長のお話に出てきた建設関係の方や笑顔の優しいお年寄りへの被害がないことを強く祈った。そういえばお話の中で被災前から修理営繕が出来ていない病院のお話もあった。地方の病院の問題は、医師の確保だけではないことがわかった。震災以前から過酷な環境だったのだと悲しくなった。

診察室でのお話で、患者さんに感謝される日々。「ありがとう」という感謝の言葉と患者さんとお話について語られるときの小窪医院長の優しい顔。ドキドキした。そして反省した。私達は感謝の気持ちを伝えているか?と・・・。

花壇整備について



支える会では、6月12日(火)病院の花壇整備を行いました。花壇の整備に必要な資材は町内企業から。花苗は、個人の方からの無償提供により実現しました。ご協力いただいた皆様 ありがとうございます。

花壇整備にご協力いただいた方の紹介

- ・フラワー温室くらぶ 様
(花壇用土の提供と運搬)
- ・芽室町農協 様
(花壇用堆肥・肥料の提供)
- ・(株)扶相 様
(有機肥料の提供)
- ・北伏古 長山 様 (花苗提供)
- ・支える会役員 明瀬さん (花苗提供)
- ・支える会役員 堀井さん (花苗提供)



無理なく自分のできることを

仲間(会員)を増やす活動・ロビーのお花・花壇のお花・みんなをつなぐ通信と支える会はゆっくりと動き出しました。自分のできることを少しずつ実現していく、未長い活動がゆっくりスタートしたようです。

▷ 事務局からのお願い

今回、総勢15名で行いました花苗植えですが、今後も定期的に花壇の水やり、草取り等が必要になってきます。日曜日・水曜日の週2回、朝7時から大人2、3人の水やり等30分程度の仕事になると思っています。ご協力いただける日にご参加ください。

TEL 62-2516 (村上建設内)